

●行政視察（福岡県大野城市、太宰府市） 山本 忠志

7月6日（月）～7月8日（水）

1 研修先

福岡県大野城市、太宰府市

2 研修目的

防災対策について

近年、全国各地で頻発・激甚化する自然災害への対応が求められる中、防災・減災対策の充実が地方自治体の重要な課題となっている。大野城市、太宰府市における防災体制や地域防災力向上の取組について学び、本町の防災施策の充実に資することを目的として行政視察を実施した。

3 成果（具体的に）

I、大野城市

(1)大野城市の概況と印象

①電車の中での出来事

福岡空港に降り立って空港地下鉄に乗った瞬間、最近の東京ではほとんど見かけることがなくなった驚くべき出来事から福岡視察が始まった。このことで、これから始まる視察に興味と期待の高まりを感じたことは言うまでもない。

その出来事とは、我々高齢者視察団が地下鉄に乗車するや否や、座っていた数名の若者が立ち上がり、当然のように席を譲ってくれたこと。

この意識は一体どのようにして若者達の心に醸成されていったのか、我々の視察目的とは違った視点ではあるが、その視点は必ずや防災計画にも反映されている筈であり、その点も見逃すことなく視察せねば、と感じた出来事であった。

②都市機能と豊かな自然を兼備する大野城市

大野城市は、JR 線、地下鉄線、九州自動車道大野城 IC、福岡空港に近く、交通の利便性からベッドタウンとして人口増加が続いているとのこと。

一方、同市は、狭い面積(26.89 km²)の中に二つの山があり、大きな二つの川も流れている自然豊かな市で、子育て環境としては申し分ない。がしかし、市の中央に警護断層が貫通しているため震災リスクがあり、人口と住宅密集のため火災発生や自然災害の被害拡大のリスクもある。

(2)大野城市の災害対策

①災害時応援協定を締結

ア、20 ジャンル、81 団体・事業者と締結

イ、協定の活用(食料供給業者協定、福祉避難所・自主防災組織等協定など)

②d ボタン広報誌の活用

ア、福岡地方局「KBC 九州朝日放送」提供のサービスを活用

イ、災害時にはKBC チャンネルでd ボタンが強制表示され、災害対策本部の広報・報道班から避難情報・避難所開設を知らせることが可能

③「逃げタオル」運動

災害が起きて避難する時に、玄関やポストにタオルをかけて逃げる運動。

救助者や近隣者は、このタオルで避難済みを確認することができ、共助の推進となる。

(3)「思いやりの街」大野城

同市の「逃げタオル運動」は、2011 年に発生した東日本大震災時の釜石市での取組みを参考にしたとのこと。

「逃げた」と「おる(いる)」を組み合わせ「にげたおる」なのだから。

使用するタオルは自前のもので、何でも OK で、特別なことはせず日常の暮らしの中の災害対策。

我々の「タオルを掛けることで、不在の表示となり治安上の問題はないか」との質問に対し、「自主防衛組織として安全活動も進めている」とのこと。

市全体として安全に且つ快適に暮らせるよう、互いに思いやりを持っていきましょう、と言う温かみのある取組みは、支援の必要な方を守り、若者の優しさをも育んでいる。

この見事な行政運営から、災害対策ばかりでなく大切なことを学んだ視察となった。

Ⅱ、太宰府市

(1)視察概要

太宰府市では、行政と地域住民、関係機関が連携した防災体制の構築を推進している。地域防災計画に基づく各種防災対策のほか、防災訓練、防災情報の迅速な伝達、防災士や自主防災組織の育成・支援、トイレカー導入など、地域防災力の向上に重点を置いた取組について説明を受けた。

特に、災害時の要支援者向けの避難所運営やペット同伴の避難者支援と関係機関との連携などについても説明を受け、平時からの備えの重要性を再認識した。

Ⅲ、所感

大野城市・太宰府市ともに、行政だけでなく地域住民が主体的に防災活動へ参加できる仕組みづくりが進められており、防災意識の向上につながっていると感じた。特に、自主防災組織への支援や実践的な防災訓練の継続、防災情報の迅速な共有体制は参考となる取組であった。

本町においても、地域住民との連携強化や自主防災組織の活性化、災害情報伝達手段の多重化、避難所運営体制の充実などについて、両市の事例を参考に検討を進めることが重要であると考えている。